

2. 事例を通して考えてみる ～国語科（4月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

1 単元名「よろしくね」

2 本単元につながる幼児期の子供の姿

幼児は、安心して話すことができる雰囲気の中で、教職員や友達など身近な人々の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり話したりしながら、言葉で表現する楽しさや伝え合う喜びを味わう経験を積み重ねている。

また、幼児は遊びや生活の中で、人に何かを伝える、あるいは人と人がつながり合うために文字が存在していることを感じ取り、文字が様々なことを表現するためのコミュニケーションの道具であることに気付いていく。例えば、レストランでメニューを作る際、本物らしくしようとする気持ちが高まってくると、絵だけでなく文字を使おうとする。分からない文字があると教職員や友達に聞いたり、「『めろんじゅうす』の『め』は、めいちゃんの『め』だね」と気付いて友達の名札を見て書いたり、「私、『め』は書けるよ」と友達が助けたりしながら、メニューを作り上げていく。そして、「いらっしやいませ。何にしますか」「『めろんじゅうす』ください」などのやり取りが行われ、文字があることで相手に伝わる楽しさや遊びが面白くなることを感じ、文字への関心は更に高まっていく。

3 単元について

(1) 単元の目標

名刺カードを作ったり交換したりする自己紹介の活動を通して、相手によく分かるように、自分の名前などを丁寧に書いたり、友達に知ってもらいたいことを考えたりする。

(2) 単元の指導計画（全6モジュール）1モジュール＝15分

	○主な学習内容	・学習活動
2モジュール	○姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、自分の名前などを丁寧に書く。	・書くときの姿勢や鉛筆の持ち方を知り、学年・組・自分の名前を練習する。
2モジュール	○自分の名前などを丁寧に書いたり、友達に知ってもらいたいことを考えたりする。	・名刺カードに、自分の名前などを書き、友達に知ってもらいたいことを絵で表す。
2モジュール	○自分の名前や友達に知ってもらいたいことを友達に伝えて、自己紹介をする。	・名刺カードをクラスの友達と交換する。

2. 事例を通して考えてみる ～国語科（4月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

4 本單元におけるスタートカリキュラムの指導について

幼児期には、自分の話や思いが相手に伝わり、相手の話や思いが分かる楽しさを感じる体験や、一人一人の幼児がその幼児なりの必要感をもって、標識や文字などに関心を持ち、その役割に気付いたり使ったりしながら、感覚が磨かれるような体験をしている。

このような経験を生かし「自分のことを知ってもらいたい」「友達をいっぱい作りたい」という児童の思いや願いを実現する必要感をもったやり取りができるような言語活動を構成することが大切となる。

本單元は児童の発達特性を踏まえて、集中力や意欲を持続させるために、15分間の短時間学習6回で構成している。名刺カードの交換で児童は多くの友達と関わり、それを通して新しい友達関係を築き、安心感をもったり仲間意識が高まったりする。また、この時期の児童は、文字を書く経験の個人差が大きく、不安を抱いている児童も少なくない。教科書や児童のワークシートの拡大版を黒板に貼ったり、イラストを使って視覚的に指示をしたりするなど、どの児童にも分かりやすい環境を構成することが重要である。

5 授業の実際（本時5～6／6モジュール）

(1) 本時の目標

自己紹介に向け、作成した名刺の交換の仕方を考えたり、友達に話したいことや聞いてみたいことなどについて進んで話したり聞いたりしようとしている。

2. 事例を通して考えてみる ～国語科（4月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

(2) 本時の展開【吹き出しはスタートカリキュラムの指導のポイント】

主な学習活動	指導上の留意点
<p>○前時を振り返って、本時のめあてや見通しを立てる。</p> <div data-bbox="504 470 1019 566" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ともだちを いっぱい つくるために なまえかあどを こうかんしよう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺カードに自分の名前などを書いたことを想起できるようにし活動の目的を明確にする。
<p>○名刺カードの交換方法を話し合っ決めて。</p> <div data-bbox="264 683 907 863" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶（はじめまして。よろしくね。友達になってね。） ・自分の名前 ・絵に描いたこと（好きなものや好きな色など） ・握手 など </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺カードの交換方法を児童と考えることを通して、活動への意欲を高める。 ・児童と教師が教室の前で名刺カードの交換を実際にやってみるなどして、活動の仕方を理解できるようにする。 <div data-bbox="1048 719 1854 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>アイデアをみんなで出し合い、モデルを自分たちでつくる経験をすることで、「学校も自分たちで考えて決めていくんだ！」という安心感や意欲、学習への構えが生まれる。</p> </div>
<p>○自己紹介をしながら、名刺カードを交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめまして。友達になってね。 ・犬が好きなんだね。私も好きだよ。家で飼っているの？ ・うん、かわいい犬がいるよ。今度見に来てね。 <div data-bbox="235 1054 907 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>名刺カードは、新しくできた友達の人数を可視化することができる。家庭に持ち帰って話もでき、保護者の安心感につながる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から声を掛けることができない児童には、声の掛け方を教えて一緒にやってみたり、他の児童とつないだりする。 ・男女間や違う園出身の友達と自分から交換している児童や、友達の名刺カードの絵を見て質問をするなどしている児童を「ともだちいっぱい」の視点で褒め、学級全体に紹介する。 <div data-bbox="1081 1086 1921 1198" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>絵が話すきっかけになる。質問する力や対話する力は全ての学習において重要となるので、繰り返し取り上げて指導する。</p> </div>
<p>○本時を振り返って、名刺カードを交換した感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8人も友達ができ嬉しいな。 ・もっと友達をつくりたいな。 ・名刺を作ってまた交換しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達ができ喜びを共感的に受け止める。 ・継続的な活動に応えられるよう日常的に白紙の名刺カードを教室に準備しておく。

2. 事例を通して考えてみる ～4月 スタートカリキュラム 算数科～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

1 単元名 「なかまづくりとかず」

2 本単元につながる幼児期の子供の姿

幼児は、遊びや生活の中で、必要感をもって人数や事物を数えたり、量を比べたりすることを体験している。

例えば、ドッジボールで負けたことが悔しくて両チームの人数を数え、「少ないから負けた」と言って同じ人数に分けることで遊びが続き、楽しくなっていく。また、芋掘りをして袋の大きさを見ながら持ち上げて重さの違いに驚き、袋から芋を出して見比べる幼児がいたり、芋の大きさや形の違いに気付く、友達と一緒に分けることを楽しむ幼児がいたりする。それぞれの過程では、自分の気付いたことや考えたことを教師や友達と伝え合い、そのことを共有しながら、遊びが発展していく。

また、積み木などの遊具だけでなく、様々な形の空き箱や身近な自然を取り入れて遊びに必要なものを作ったり、身近な動植物に親しむ中で、花びらや葉、昆虫や魚の形などに気付いたりするなど様々な場面で図形に親しんでいる。

3 単元について

(1) 単元目標

10までの数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。

(2) 単元の指導計画 (全11時間) 1モジュール=15分

	○主な学習内容 ・学習活動
3モジュール	○いろいろな観点や条件に応じて、集合を作ったり、一つの集合に対してその集合の観点や条件を考えたりすることができる。 ・絵を見て自由に話し合いながら、同じ条件の集合に着目する。
3モジュール	○集合の要素の個数の多少を1対1対応の方法で比べることができ、数が同じ、違うなどの意味を理解する。 ・数の多少を線で結んだり、ブロックを用いたりして比較する。
3～11	○数の大きさを表す数詞と数字が対応していることを知り、ものの数を数えることができる。 ・絵を見て、いろいろな集合を見付け、要素の個数に着目する。 ・数詞を対応させる。 ・各要素の数や数図に数字を対応させる。 ・具体物を数える練習をする。 ・数字の書き方を知り、書く練習をする。 ・数の大小比較をする。 ・0という数について知る。 ・大きい数から小さい数の順に唱えたり、途中からの数から唱えたり、2ずつ交互に唱えたりする。

2. 事例を通して考えてみる ～算数科（4月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

4 本単元におけるスタートカリキュラムの指導について

幼児期には、一人一人の幼児がその幼児なりの必要感をもって、数量等に関心をもち感覚が磨かれるような体験や、安心して考えを伝え合う中で、自分とは異なる考えに気づき、新しい考えを生み出す喜びを味わうような体験もしている。児童が算数のよさを認識し、学ぶ楽しさや意義を実感できるようにするには、こうした幼児期の体験などを生かし、実生活との関わりを意識した数学的活動の充実を図ることが大切である。

まずは、何でも話してよいという安心感のもてる学級の風土づくりから始めたい。教科書にある動物の絵を見て、発見したこと、気付いたことを出し合う。自分が感じたことをどんどん話してもよいのだと児童自身が実感できることが大切である。児童が自分の言葉で伝え合う中で、数についての関心や学び方を少しずつ身に付けていくことができるからである。

そして、教科書で学んだことを教室や学校の中での具体物や実生活での具体的場面に結び付ける活動を取り入れることで、くらしの中で数が存在していることを自覚化できるようにしていきたい。

なお、次の事例は、入学当初の児童の発達の特性に配慮し、単元の前半は15分間の短い時間を活用して授業を行っている。

5 授業の実際（本時1モジュール／11時間）

(1) 本時の目標

いろいろな観点や条件に応じて、集合を作ったり、一つの集合に対してその集合の観点や条件を考えたりすることができる。

2. 事例を通して考えてみる ～算数科（4月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

(2) 本時の展開【吹き出しはスタートカリキュラムの指導のポイント】

主な学習活動	指導上の留意点
<p>○教科書の絵を見て、気が付いたことや思ったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カバがいます。・ネコがいます。 ・本当だね。ランドセルもあります。 ・ライオンは、先生だと思えます。 <p>「座っているのは、どの動物ですか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネコです。・パンダもです。 <p>「ランドセルを背負っている動物は何ですか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブタです。・イヌも背負っています。 ・背負っていないイヌもいるよ。 <p>「どうして間違えちゃったんだと思う」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座っていたから気付かなかったんじゃない。 ・なるほどね。 ・ブタは帽子をかぶっているよ。 ・イヌは、帽子をかぶっていないね。先生におはようございますって挨拶しているから帽子を取ったんじゃない。 <p>「どうしてそう思ったの」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕もね野球のコーチに挨拶するとき帽子を取るからなんだ。 ・なるほどね。 <p>「いろいろな仲間が作れたね。次はみんなで作ってみよう」</p>	<p>○教科書の絵を見て、自由に話し合いながら同じ観点や条件の集合に着目できるようにする。</p> <div data-bbox="1211 523 1980 619" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>数のことに直接関係がない発言も大いに認め、まずは、みんなの前で自分が考えたことを安心して発言できる雰囲気をつくるのが大切である。</p> </div> <p>○どうしてそう思ったか、前に出て説明できるように、教科書を拡大して示すようにする。</p> <div data-bbox="1211 874 1980 995" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうして間違ってしまったかを考えることは、必要感をもった話し合いにつながるので、大切にしたい。間違った児童に対して「〇〇さんのおかげで、いい勉強ができたね」などと声を掛けたい。</p> </div> <p>○友達の発言について、隣同士で確かめる機会をつくるなどして集合として捉えられているか確認する。</p> <p>○「半そでの服を着ている人」「ハイソックスの靴下を履いている人」など、集合の観点や条件を変えて集合作りを楽しめるようにする。</p>

2. 事例を通して考えてみる ～音楽科（5月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

1 題材名「はくをかんじとろう」

2 本題材につながる幼児期の子供の姿

幼児は、感じたり考えたりしたことをそのまま率直に表現することが多い。また、身振りや動作、顔の表情や声など、自分の身体の動きや音や形などに託して、自分なりの方法で表現している。

遊びや生活の中では身近にあるいろいろな物を楽器のようにして遊ぶ、身近な楽器の音色を楽しんだり、リズムを感じたりする、即興的に歌う、誰かが歌い出すと合わせて歌いはじめる、友達と一緒に踊ったり合奏したりするなどのことを楽しんできている。

幼児は、自分なりの表現や楽しさを教職員や友達と受け止め合いながら音や音楽で十分に遊び、友達と一緒に表現する楽しさを味わっている。

3 題材について

(1) 題材の目標

音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりしながら、拍の流れによって表現する喜びを味わう。

(2) 題材の指導計画（全4時間）

	○主な学習内容 ・学習活動
1	○「なまえあそび」など言葉を使った遊びを通して、拍の流れによって言葉のリズムをつくる。 ・拍打ちに合わせて「○○○・」（タンタンウン）に入る言葉を見付ける。 ・「なまえあそび」のリレーをして楽しむ。
2	○わらべうたを使った遊びを通して、拍の流れによって表現を工夫する。 ・知っているわらべうたを紹介し合い友達と遊ぶ。 ・「おちゃらか」「なべなべそこぬけ」等、速度に変化をつけて、歌いながら手遊びをする。
3 4	○歌ったり体を動かしたりして、拍の流れによって表現を工夫する。 ・「さんぽ」を聴いて歌ったり手拍子をしたりする。 ・「さんぽ」に合わせて足踏みや進行をする。 ・教師の伴奏による様々な速度や強弱の「さんぽ」を聴いて歩いたり体を動かしたりする。

2. 事例を通して考えてみる ～音楽科（5月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

4 本題材におけるスタートカリキュラムの指導について

幼児期には、幼児自らが興味のある音や音楽で十分に遊び、感じたことや考えたことを自分なりに工夫して表現する楽しさを味わうとともに、友達同士で表現する過程を楽しむ体験をしている。

本題材では、わらべうたや手遊びうたなど、園で遊んだことのある曲を、可能な限り教師が取り上げ、児童が周囲と共有・共感しながら、みんなと楽しく歌ったり踊ったりすることを心掛けたい。そのことで、自分の知っている曲を聞いて活動できる充実感や、友達と一緒に遊ぶ満足感を得て、これからも音楽科の時間を楽しく安心して取り組むことができる雰囲気醸成される。また、一緒に歌ったり踊ったりする環境構成としては、児童が自由に体を動かすことができる場を整えたい。音楽室のほかにも、オープンスペース、多目的ホール等を活用したり、教室でも机や椅子を後方や廊下等に移動して児童がすぐに手遊びできる場をつくったりすることを心掛けたい。なお、本題材で取り上げるわらべうたや手遊びうた、「なまえあそび」のリレーや楽曲「さんぽ」（作詞：中川李枝子、作曲・編曲：久石譲）を使った足踏みや行進などの学習活動は、音楽科の時間に限らず、朝の時間、昼休み、帰りの時間などで、時間を見つけて継続的に取り上げることで、仲間づくり、居場所づくりにも効果的に働く。

5 授業の実際（本時1／4）

(1) 本時の目標

「なまえあそび」など言葉を使った遊びを通して、拍の流れを感じ取るとともに、拍にのって言葉のリズムをつくり出す喜びを味わうことができるようにする。

(2) 本時の展開【吹き出しはスタートカリキュラムの指導のポイント】

この時期の児童にとって、学級への所属感をもつことは、大変重要である。少ない時間でも日頃から児童の知っている曲を取り上げ、歌ったり踊ったりしておくことで、自分の存在が認められ安心して音楽の授業に臨むことができると思われる。

2. 事例を通して考えてみる ～音楽科（5月）～

文部科学省国立教育政策研究所編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」

主な学習活動	指導上の留意点
<p>○「なまえあそび」をして拍の流れを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の打つ拍に合わせて、「教師：『○○さん・』 児童：『はあい・』」の遊びをする。 ・「お名前は」「○○です」の遊びを教師と児童、または友達同士でする。 <p>○拍打ちに合わせて、「なまえあそび」を工夫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「○○○・」に入る好きな3文字をみんなで見つける。 ・1人→1人、1人→全員などで拍打ちにあわせて「なまえあそび」をする。 <p>○「なまえあそび」のリレーをして楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れにのって、「○○○・」の中に入る言葉のリズムを当てはめながらリレーをする。 	<p>○教師は一定の速度で拍打ちをするようにするとともに、児童の様子を見ながら、その速度を調整して、児童が安心して答えることができるようにする。</p> <p>○「タンタンウン」の4拍子のリズムに合わせて、児童の名前を呼び、教師が例示しながら、「はあい・」とリズムをとることができるようにする。</p> <div data-bbox="1137 544 1906 627" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>拍に乗れるように教師がテンポを調整するとともに、励ましたり誉めたりしてなごやかな雰囲気の中で進められるようにする。</p> </div> <p>○児童から出た言葉を板書したりヒントになる絵や言葉のカードを掲示したりしながら、どの子も拍打ちに合わせて唱えられるようにする。</p> <p>○「タンタンウン」と4拍目（ウン）に休符を入れながら、みんなの手拍子がそろうように助言する。</p> <p>○リレーをする際は、3文字の言葉を自分の隣の子へ丁寧に渡すような気持ちで、唱えるように助言する。</p> <div data-bbox="1137 1018 1906 1101" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>拍にのることや、3文字に収めることができなくとも、一生懸命取り組んだり丁寧に取り組んだりしていることを取り上げて、褒めたい。</p> </div>

第2時では、わらべうた、手遊びうたなどは、園で覚えた曲を可能な限り取り上げ、一人一人を認めながら進めたい。
第3、4時では、ペアや4、5人のグループで活動を行い、児童が友達と一緒に楽しく活動できるように配慮したい。